

会 議 録

会議の名称	令和元年度中野市総合戦略会議
日 時	令和元年8月22日(木) 18:30~20:00
会 場	市役所会議室 21
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・出席者：前澤憲雄(会長)、小野建一(副会長)、高橋一隆、山浦直人、小田切康雄、中村稔彦、佐藤康、佐藤美紗、赤松(中村)頼子、若林正展(アドバイザー)・欠席者：関貴彦、後藤治志、永井孝一、山口美緒、相子靖子、松野奈月・市出席者：保科総務部長、佐野政策情報課長、有賀課長補佐、松下副主幹
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会 (進行：保科部長)2 会長あいさつ3 会議事項(佐野政策情報課長)<ul style="list-style-type: none">・平成30年度における中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の評価検証について・次期総合戦略の策定について6 その他7 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

令和元年度中野市総合戦略会議

令和元年 8 月 22 日 (木)

18 : 30 ~ 20 : 00

市役所会議室 21

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議事項

・ 政策情報課長から資料に基づき説明

・ 委員からの質問及び意見

○ 評価検証について

(委員)

目標を達成している項目もありますが、目標設定がどのようにされているのか根拠をまったく知らない、その目標が妥当であったかも定かではないので、次期の目標設定の際は妥当性も見なくてはいけない。

ブランド力、中野市のブランドと言った時に先ほど会長からもブランド力が弱いとありました。日本全国を見た時にブランド力があるのはどこなのかと考えたら、明確に情報を発信しているところです。代表的な所は香川県のうどん県です。うどんと言ったら香川県だれもが知っている。これは極端な例です。全国の市町村で今人口が増加している、税収が上がっている地域というのは、明確に指針を出しています。情報発信しているということです。今、全国を回っていますがそういった所は市町村が政策をきちんとやっています。中野市は明確に何がブランドですか、何を売るんですか。過去に何回か話をさせていただいて聞いてはいますが、例えば、きのこを売りたい、果物もある、音楽のまちである。これを長野県の人たちに中野市はそういう街ですかとアンケートをとったらどれだけの人が明確に答えられるだろう。多分、中野市ってどこにあるの？ という人もいるかもしれませんね。私は昨年、東京から赴任してきましたが、中野市がどんな市なのか全く知りませんでした。ポテンシャルとしては非常にあるのに情報発信がうまくいっていない、これは間違いない事実だと思います。何をどのように売るのが重要です。今、まちづくりを市としていろいろな所にプロモーションに出掛けると書いてあるが、非常に限定的でその地域その地域があるので、100ヶ所でやって効果があるかと言ったら皆無です。ほとんど効果がないと言ってもいいでしょう。プロモーションをやり続けても効果は上がらない。やっぱりブランド力を上げてるところでいうと、発信しているところはちゃんと登録商標を出しています。経済産業省が明確に特許を出してブランド作りを推奨しているので、中

野ブランドを明確に出す。中野はきのこで良品質などのブランドを出して、中野といえはきのこですよ。あるいはりんご、もも、ぶどう等、明確に糖度、味を決め、品質を担保しながら明確に打ち出す。長野県内でブランド化してるのは1ヵ所か2ヵ所しかありません。経済産業省のHPを見ればわかります。長野県は意外に色々な物を売っているが、やっていることが非常に乏しくて、明確にメッセージが発信されていない。ブランド化で言うと、北海道東川町に行った時にすごく衝撃を受けました。東川町は米と水を売っています。地下水を実際ブランド化して売っている。水道水は一切使っていない。地下水を「湧き出す水」と称して完全ブラン化し、登録商標している。その水で作ったおいしい米というのが東川米というブランドがあって、これも登録している。登録するのにブランド価値を上げるためにモンドセレクションにも登録している。登録するのに500万円かけて1年間で金賞をとりに行く（お金を出せばもらえる）。これによりブランド価値が上がった。東川町はもともと何の町でもなかった。今は写真の町として脚光を浴びている。「写真の町東川町」と言われるぐらい全世界規模の写真の大会があったり、高校の写真部の大会があったり、日本国内の大会があったりと自分たちで写真の町であることを明確にアピールしている。1985年から取り組んで今は知名度が大変高くなっている。中野市は何ですか。音楽のまちで売るのなら施設をつくって音楽の町でうるとか、フルーツの町とかどこでもやらないことを先駆けてやることに意味がある。後手に回って2番手3番手だと何も面白くない。ほかの町がやってしまったら面白くない。早く1手を打てば中野市は1つとび抜けて全国にその名をとどろかすことができると思っている。取り組みを早くすべきだ。ただし、クリアするためにはJAなどとの調整をしなければいけない。そこからブランド化を考えるとある程度の基準ができる。その時とりこぼす農家も出てくる。そこをどうするかというと、技術を提供してブランド化できるまで立ち上げていく事が重要。市だけの政策ではなく、JAの政策も必要になる。ブランド価値を上げるために何をしなければいけないかは、市を挙げて自治体だけではなく様々な人と協議をして早く進める。スピード感がすごく重要。長野に来て思ったことは、スピード感が全然ない。戦略会議も1年に1回で1年後に忘れたころにやって来る。戦略会議をやるなら数か月ごとにどういう成果を上げたのか、目標数値を定めて、到達基準を決めてどんどん進めなければいけない。そういった所ができていない。市としてどうするのか。ブランド化と言って絵に描いた餅のように掲げていても何も到達しない。10年20年経っても同じ事やってても到達しない。到達するためにどうするのか。私が申し上げたことは一例であってやりなさいということではない。ちゃんとした会議を関係者を集めてしっかりやらなければいけない。市の職員がわからなかったら、専門家を交えて戦略会議以外の会議で分科会を立ててやる。その結果、1年後成果を戦略会議で報告する。ということなら非常に意味のあることだと思う。いかがでしょう。

(会長)

的確なご発言をいただきました。関連して他の皆さまいかがでしょうか。

(委員)

参考に聞いていいですか。長野県で軽井沢以外で知名度のランキングの高いところはどこですか。

(政策情報課長)

契約している場合のみ結果がわかる。他市町村のことは記載されていない。中野市が何位かしかわからない。

(委員)

山ノ内町や飯山市などと情報交換はしてないのですか。

(政策推進係長)

情報共有はしていません。

(委員)

北信管内でライバル意識とかあると思うので、情報共有などで上がっていくのかと思っていたが、情報共有していないことは残念です。

(委員)

ランキングにもいろいろありますよね。魅力度ランキングや知名度ランキングなどそれをとらえた時、魅力では上の方にいくかもしれないし、どのランキングかにもよりますよね。

(政策情報課長)

過去に住みよさランキングということで中野市は割と高い位置だったこともあります。翌年、評価指標が変わったことにより順位が落ちてしまった。

それでは、さきほど委員にお話しいただいた件につきましてお答えします。大変全般的に重要な話をスピーディーにお話しいただきましてありがとうございます。委員がおっしゃいました、中野市にポテンシャルがあるという話の中で、きのこ、果物、音楽のまちということの特徴をとらえていただきました。中野市もキャッチフレーズとして「緑豊かなふるさと文化が香る元気なまち」と掲げております。緑豊かなふるさとの部分は主に農作物のことであろうなどと思っており、文化が香るは音楽、または偉大な作詞者の方というようなことと自負しております。委員のおっしゃるとおり発信が弱いというご指摘は、中野市としましても農作物のブランドについて、例に上がりましたが、きのこにつきましては、えのき茸につきましては、全国1位のシェア、最近人気のシャインマスカットにつきましてもいち早く産地化に取り組んで、主にJA中野市の取組努力におきまして大きな産地化と評価をいただいております。PRもしていただいているところですが、JA任せではなく、市として売れる農業推進室でPRしております。11ヵ所回っているが効果が上がらないとおっしゃられましたが、市としてできる範囲のことをやっているという現状です。

(委員)

問題に取り組むという試みはないのですか。現実的に検討することもしていないじゃないですか。やるかやらないかは先の話ですから、実際に試みがあってその試みをみんなでやるのはどうですか。関係者を集めて議論したらどうですか。メリットもデメリットもあるかもしれないが、デメリットはどのようにクリアできるか議論しなくてはいけない。みなさんは、空論で何となくできないんじゃないか、デメリットばかりいくつも挙げて、できないパターンはいつもそのパターンです。できる人というのは、できるための努力、あるいは何が問題か明確にクリアしていきませんが、できない人の思考パターンはだいたい言い訳ばかりつけて動かない。そうではなくて前的な思想で私たちも取り組んでみません

かということで、それを前提に問題点があったらクリアしていきましょう。経済産業省のHPでも指導方針まで出している。どうやったら登録できるのかまで書いてある。わからなかったら、経済産業省に電話する、出向くなどやり方はある。市として積極姿勢なのか、そうではないのか。一切やらない、市長が決めたことしかやらないということならダメだと思う。

明確に問題意識を持ってやるのかやらないのか、やらないなら戦略に目標を書くなどということですよ。空論を書いて評価だけしてくださいなんてばかばかしい話はないですよ。やるつもりあるんですか。やらないんですか。常に具体案があって目標があるのですから、具体案も改善案もないのに目標なんてないんですよ。それについてどう思っているのかがポイントですから、市としてのどのような方針なのか。総務部長もいらっしゃるわけですから、明確に聞きたいです。やるが気ない、市長から言われたことだけただやるならわざわざこのような会議を設ける必要はない。ただ、評価を見てください、達成しました、これでいいですね、よかったですね、1年に1回顔を合わせるだけの会議に私は出たくない。明確にやるんだったらやる。やらないならやらない。どういう方針でいくのか。積極的にやるのか。やらないのか。含めて聞きたい。

(総務部長)

手厳しいご意見いただきました。中野市としてもこれまで農産物の関係につきましてはJAとも協力しながら生産量の拡大など取り組んできているところですよ。中野市のブランド力ということでは、これから生産量ももちろんですが、高品質のブランドということで、これに関しては詳しく承知していませんが、それぞれ担当部署で目標についてなど検討していると思いますが、このままではいつまでたっても農産物を中野のメインにという形の中ではちょっと弱いというところはあるのかなと思う。できることは早くやるということはもちろん必要でございますので、JA等関係機関との調整など、ブランド力向上ということで担当部署の方に今日のご意見を繋げます。

(委員)

農家も含めてこれをブランド化するとまず収入が上がります。収入が上がると当然税収も上がる、知名度も上がる。住民の方々の生活を向上していくという意味でも非常に重要な取り組みだと思う。その辺を市が先導してイニシアティブをとってどれだけの熱意をもってやっていけるか、担当者の思いがないと実現はしないと思う。私が市町村を回って感じるのは、ものすごく活発な政策をやっているところは市町村のスタッフがみんな非常に熱いです。自分たちがまちを支えている、自分たちがまちを変えていくという意識がものすごく高いです。そういう意識を市にも持っていただきたいと思う。言われたからとりあえず話しておこうか、来年までとりあえず考えておこうかという感じで聞いてもらっては困る。私は中野市の住民ではありませんが、私が市の住民でここでどういう話がされているのかと言った時に、一応、今委員として言えることは、市の住民の方々にもこの話を聞いて頂いて、納得がいく話の内容でない私が市民だったら怒ると思います。何のために中野市に税金を納めているのか。私たちの生活を豊かにするために中野市に税金を納めている。行政サービスはしっかりやってくれているのだろうか。私は専門が財政なのでこのようなことを常々考えています。そういう気持ちで是非取り組んでいただけたらと思います。

(会長)

ご意見をどのように反映するかということでご検討いただけたらと思います。

(委員)

項目を見たがいっぱいありすぎて全部達成することは無理だと思う。中野市としてこれだけは達成したいと思うものを拾ってそれについて会議をしていった方が効率がいいのではないか。

(政策情報課長)

中野市がこれだけは達成したいと思うものにつきまして、簡単に言うと基本目標の4つです。人口、自然減を抑制したい、社会増にしたい、労働、産業を発展させたい、安全安心健康長寿のまちにしたい。この4つでございます。この4つは漠然としています。国の4つの柱と同じであります、具体的なものを拾ってものさしとして項目がたくさんあります。ものさしが目標ではありません。本当の目標は先ほど申し上げた4つでございます。

(委員)

先ほどの続きですが、1点だけお願いします。検討されるというお話でしたが、検討した結果は教えていただけないですか。1年後に結果だけ聞かされても意味がない。やるのか、やらないのか位の結論はすぐに出ると思う。やる気があるのか、ないのかだけでもわかりますし、いつ、どなたが、どんな議論し、どのような結論に至ったか、できなかった時には、できなかったという結論を委員の皆さまには報告すべきだと思う。

(総務部長)

先ほど申し上げましたが、本日ご意見を頂戴しましたので、担当部署の方に話をさせていただきまして、できる、できないはあると思いますが、検討してもらうように話をしたいと思います。

(委員)

結論もいただけますか。

(会長)

検討結果を報告していただきますようお願いします。他にどうですか。

(委員)

7月に入籍して中野市にずっと住むことになりました。移住者という視点で申し上げます。約2年間中野市役所の方と一緒に働いて、市民の方たちとも働いて、他県からの移住者としての3点の視点を持っています。移住について日ごろ感じていることを移住相談と就農相談会に参加して感じたことをお話しします。中野市に強みがないと感じています。移住相談会、就農相談会で移住者を中野市に引き寄せる何かがないと全国のブースの中で、長野県中野市のブースに来てもらうことがとても難しい。相談会で北信地域が固まってしまうと、隣に山ノ内町、飯山市がいると隣の町の事を悪く言いながら自分の町をよく言ったりしているので難しかった。今、地域おこし協力隊を入れるとき、市で作っているキャッチフレーズが1つあって、「ちょうどいい田舎に住んでみませんか」「ちょうどいい田舎」というフレーズがあります。「ちょうどいい田舎」というキャッチフレーズを使いながら中野市の良さを提案しています。そうした中、農業だけではなくいろいろなニーズが必要。ただ単に移住したい、アート活動をしたいから田舎暮らしをしたいなど農業だけではなく、

色々なコンテンツがあって、その中で移住をしたくて中野市を選んでくれるというパターンになるので、移住相談会に行くのは営業推進課、就農相談会は農政課、先日は、子育てをしたいから移住をしたいという方がいました。老後に移住したい方もいました。色々なニーズがあるので、市の行政は色々な仕組みがあって、いくつも課があって縦割りの仕事だということは承知していますが、大きくくくって「移住」というキーワードで中野市の事を考えていけば細かく分かれているものがまとまって、先ほど委員がおっしゃったように中野市のイメージは果物、きのこ、音楽など色々あって、それをまとめて中野市のブランドにするのは正直、北信地域だとどこでも果物、きのこ、音楽がある。そこで「ちょうどいい田舎」、本当に自分が住んでみて住みやすいなと思うので、実際に移住した人の気持ちを吸い取ったり、外から移住したいと思う人たちの気持ちを考えたら、人口増加につながる。大きく移住というキーワードで考えることができれば、都市だけではなくて山ノ内町や飯山市からも移住してくる人がいる可能性もあるかもしれないと思う。移住相談会と就農相談会に参加して感じたことです。

(会長)

どうですか。縦割り横割りの話もありました。中野のイメージはよくわからない。文化香るなんて言ったって、なんだかわからないが、ちょうどいい田舎と言った方が今の人にわかりやすい事は間違いない。

(総務部長)

ちょうどいい田舎と言うことで見学ツアーなどしておりますが、移住となると来られる方は色々な心配をされてくると思われるが、対応についてはそれぞれの分野分野で対応しているのが今の現状です。移住は営業推進課を中心にやっていますが、実際不安があった場合にはそれぞれの部署でというのが今の現状です。縦割りに関しては、営業推進課ができた時からの課題となっておりますので、即答はできませんが検討させていただきたいと思えます。

(委員)

色々な課に経験した方を配置するのはどうですか。何でもできる方を配置した方がいいですよ。

(会長)

ある程度コーディネートして把握し、ジャッジ能力があった方がいい。

(総務部長)

地域おこし協力隊といった方たちがどんどん中野に来て住んでいただけるということも1つの大きな役割なので増やしていきたいと思う。

(会長)

次回検討する時にこの意見を聞いて、例えば移住も大切な切り口なので「移住推進課」「移住促進課」にすると横断的な業務が遂行できることになるだろう。

(委員)

転入が大きな課題ですね。

(委員)

今回、待機児童があるということで、待機児童が0人だったら育てやすいということを含めて全面的にアプローチできた。移住者にとって住みやすいまちじゃなくて、市民にとって住

みやすいまちを創ることが魅せるために大切。

(委員)

昨年は待機児童0人だったと思いますが、実は長野市も今年 11 人だしています。中野市は何人ですか。

(総務部長)

今年度に入りまして待機児童が出ている状況です。

(委員)

私も待機児童の問題を扱っています。待機児童の解消方法は色々ありまして、今後無償化の問題もあり、全市町村いっきに人数が増えるのではないかという問題を抱えている中で、それを解消する施策というのは、当然、先に先手を打っておかないと来年の4月に向けては、いっきに増える可能性がある。後手に回るとどんどん数値が悪化して評価が落ちていくので、そのために早く対策を講じる必要があると思う。プランはたくさんありますよ。今の既存の施設を利用していかにうまく効率よく回すかということ。全国の市町村で取り組んでいるところがいくつもある。ここでは言いませんがヒントはいくつもあります。いかにコストをかけずにやるかです。

(委員)

会長が冒頭あいさつで言われたようにブランド力がまだまだだというお話の中で、改めて中野市にどのようなブランドがあるのか掘り起こしていただきたい。私は商店会に携わっておりますが、そのブランドをうちで使いたいとか、この商店会でブランドを発信していこう。人が来るような通りにしようという取り組みにも繋がりますので、中野のブランドになるものは何があるかを改めて掘り起こす。それを審議した中でブランド力が日本全体、世界に通用するような発信をしていくとインバウンドのお客さんも来ていただいたりとか商店会の立場としてお願いしたいと思います。

その中で農業のブランドは非常に魅力があって強い部分だと思いますが、商業につながるブランドが欲しい。土びながありますが、あれも1つでしょうけどその他に欲しい。

(総務部長)

ブランドの掘り起こしについて、見直しを考えたらどうかとご意見をいただきました。そういうことも含めて、協議課題にもなっていますが次期総合戦略を立てていく中、今年度中に策定作業に入ります。検討の中で新たなブランドをもう一回掘り起こしからを含めて庁内で検討して新しい戦略作りに生かしていきたいと思っている。

(委員)

市民が市政に興味を持たないとだめだと思う。無関心であれば意見も出てこない。市民が興味を持つような対策をしていかないとだめだと思う。無関心が一番怖い。役所の中で決められちゃって、市の人はいつの間にか決まってるよとなると怖いじゃないですか。市政に興味を持てるような政策をしていかないといけないと思う。

(会長)

大事なポイントだと思います。市民参加型をどう作り上げるかが大事だと思う。市民全体がブランドを共有できるような、まずはブランドそのものを拾い上げると次の戦略の計画策定にも関与してくることだと思う。全体を共有できるようなブランド推進会議を課長の皆さんが参加できて、それをちゃんと協議検討してPDCAがまわるように機能的な仕

組みも重要になると思う。会議だけやって終わっているのでは委員がおっしゃるようなと10年経てばだめかなという気がします。組織を作ることも次の課題ですね。

(委員)

転入者が1,361人いますが、2つ聞きたいことがあります。細かい数字はないと思いますが、どういう方が転入されているのか、若い人なのか、お年寄りなのか、子育て世代なのかなどそういう情報はありますか。

(政策推進係長)

手元に資料はありませんが、20代後半から30代くらいが転入の方が多い。

(委員)

転入してきた方がどこに住んでいるのか聞きたい。アパートに住んでいるのか、人口が流入してくるというケースは、人口の多い市町村は必ず土地の区画整備事業をやって、そこに家を建てて新居を構えて住み込むという形が全国的に結構多い。中野市の場合は受託は何もしていない、ただ空いてるアパートに入るとか、住んでいるとか、そういうことなのかどうなのか。

(政策推進係長)

はっきりした統計はないです。

(委員)

新しいマンションが建ったとか、新しい住宅地が増えたとかそういうことでないのですか。

(総務部長)

中野市は最近はないですが、住宅開発は割と多いです。市外から入ってくる方も相当数いると思う。

(委員)

市として何かをやっているわけではなく、民間が動いてやっているということですね。

場合によって市は、人口を増加させるために区画整備事業をやって新しい住宅地を造るとか、農家が減っているなら農地が空いてきているから農地から宅地へと変換ということも場合によってはあるかもしれないですね。そういう課題はないのですか。

(政策推進係長)

単純に遊休荒廃農地の増加を抑制するために具体的に宅地開発するとか市では今のところない。

(委員)

可能性としてそういう土地はありますか。

(政策推進係長)

遊休荒廃農地を開発するとかは市の政策としてどうなのか考えなくてはいけない。

(委員)

全国的に見た時に人口が増えている市町村は必ず土地区画整備事業をやっています。全国的な統計です。私が統計をとりました。市の政策として住宅のあっせんという事を積極的にやる必要がないのかどうか。保全という問題もあるので必ずしもそれがいいとは言えませんが、そういうことも考えなくてはいけない課題ではあるかもしれない。家があれば中野に住みたいという方はいらっしゃるかもしれない。

(委員)

今、ネックになっているのが営業推進課の方でも進めている事業で、空き家対策は進めています。空き家があると移住したいという人と、農業をやるには家に作業小屋がついていないと農業したいのに始められないというのが問題になっている。区画整理も大切と思うが、手を付けやすいのは実際にある空き家を手放されていない方がたくさんいると思うので、今ある財産を活用する方をもっと積極的に行政も市民も知識を共有しあえたら何か変わるかな。

(会長)

空き家問題は去年も議論しました。建築関係業界と不動産業界とそれぞれがリンクできていないところがあって進まない。戦略の結果を見ても全く進んでいないと言わざるを得ない。

(委員)

ニュースでみましたが、市は、金融機関と協定は結びましたか。

(委員)

空き家の推進委員会とかありますか。

(政策推進係長)

都市計画課にあります。

(委員)

例えば、宅建の業者とか不動産会社とか建設業者とか入ってやっているんですね。

(総務部長)

まず、中野市とすれば空き家対策というのは非常に大きな課題ではあって、そちらに力を入れていますが中々進んでいないという事が課題です。ただ、空き店舗でとらえますと平成 30 年は実績が 1 戸でした。ここでホテルができる計画があります。それに絡んでかなり活発に動き始めています。

(委員)

空き家も住めない空き家もある。

(委員)

私も空き家を持っていましたが、数年経つと痛みが激しくなってしまうので住めなくなってしまう。空き家問題はタイムリーにやらなくてはいけない。空き家になって直ぐに住むという事になったら荒れませんが、空き家になって数年経つと周りも草だらけになってそこにお金もかかってしまうので、スムーズにやらないとあつという間に朽ち果ててしまう。風が入らないと家は傷む。

(会長)

話を進めるため、引き続き対策をしていく必要がありますね。

(委員)

ブランドについて、農家からするとブランドどうのうこうのと言われなくてもランキングが低くてもブドウ農家など所得がだいぶ上がっている。農業でブランド力を上げると言ったら、ふるさと納税に力を入れて、お米とかはそこで牛耳っていると思う。そこで業者が「あそこはふるさと納税で全部やっているからだめだ。」っていつてる地域ほど認知度が高い。これからシャインマスカットに力を入れよう、きのこに力を入れようと言っても

農産物はスーパーに行っても長野県しかない、中野市ではない。あるとしてもきのこラベルぐらいです。そういうところでブランド力を上げるってこともできませんし、これからシャインマスカットをどんどんやりましょうと言っても海外が欲しがっているので中野市の農産物は海外に出さなくてはいけない段取りになっていくので難しくなっていくと思う。私の小さな情報ですが、もっとJAと情報を密にしていだけないといつの間にかシャインマスカットは売れているけど中野市はそっちのけになってしまう状況になりかねない。シャインマスカットはあと2年くらいで全国規模で作られると思うので遅いかもしれませんね。

(会長)

日々ものすごい速度で進んでいることは事実ですよ。中野市は幸いにも他の産地よりいち早くシャインマスカットを導入したために今の経済の地位がある。追いつけ追い越せということで、シャインマスカットは九州でもどこでもできる。

(委員)

シャインマスカットは市民は食べられない。

(委員)

東京の人は食べている。一房4,000円くらいで売っている。普通の人は食べられない。

(会長)

買う場合、中野のシャインマスカットは中野市民が食べられなくて、中野市民は他県から来たシャインマスカットを食べている。

(委員)

移住について、保育園児のいる家庭のお母さん達にブドウ農家にアルバイトについて聞いていただくと意外に子供の具合が悪いとかにも対応できるし、働きたい時間だけ働けばいいと融通が利く。お母さんたちも助かるし、農家も助かる。作業もはしごにのぼらないのでけがもほぼない。シルバーより若い方の方が手が早く覚えるのも早い。需要はあると思う。

(会長)

他にございませんか。

様々のご意見をいただきました。意見を整理し、回答するものはしてください。

協議事項の(2)に移りたいと思います。次期総合戦略の策定について議題とします。

○次期総合戦略の策定について

・政策情報課長から資料に基づき説明

(委員)

中野市が目指す将来の目標人口43,000人と人口増という事でございますが、ご存じのとおり過去に人口増は一度もない。人口増にするためには何か具体的な策がないと目標は立てられない。次期戦略で目標にされるというならば具体的にこれまでと違う政策、何に取り組むのか、何をすればこの目標を達成できるのか、具体案をお示しいただかないと目標として妥当ですとは言えない。第2期は新たにこれをやります。これとこれとこれをやるから絶対人口が増加します。というなら納得できるのですが、今までと同じようなこ

とをやっていたらだめです。明確にお示してください。

(会長)

要望としてしっかり受け止めていただきたいと思います。

(委員)

市街地の中で空き店舗、空き家が増加しております。そこに手を入れることによって人口増となると思いますので真剣に考えていただきたいと思います。今までの状況ではなく違うやり方で一緒に考えていきたいと思います。

(会長)

(2)につきまして、それぞれの皆さんの要望をきちんと対策、対応をお願いします。

(政策推進係長)

委員の話の中で、目標人口 43,000 人について、これは平成 27 年に総合戦略を作った時の今年度までの目標人口です。第 1 期の目標人口です。

(会長)

今後の計画立案をお願いします。その他事務局からありますか。

4 その他

(政策情報課長)

本日様々な意見をいただきましたので庁内で共有して今後の政策、新しい年度の戦略という事で検討したいと思いますのでよろしくをお願いします。

・ 部長あいさつ

(総務部長)

本日は大変貴重な時間を頂戴いたしまして多くのご意見、ご提言をいただきましてありがとうございます。今年度次期総合戦略を策定しますので、今後ともご意見、ご提言をいただく場面もあろうかと思いますがよろしくをお願いします。以上をもちまして本日の令和元年度中野市総合戦略会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

閉会 (20 : 00)